

アール

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2013年 春号
第74号



(大山崎山荘美術館より)

目次

■ 近建女交流会の報告	本保万貴子 1ページ
■ 岐阜見学会 ～「如庵」を訪ねて～	渡邊有佳子 3ページ
■ 「既存木造住宅の耐震診断・ 補強設計講習会」を受講して	庄田尚代 5ページ
■ 私と建築	杉田数代 6ページ
■ 今後の事業予定	7ページ



平成 25 年 3 月 30 日(土)に、近畿建築士会協議会女性部会(通称 近建女)の交流会がありました。

近建女では、全建女参加補助や近畿各府県持ち回りの見学会(24年度は和歌山県開催)などの事業、近建女運営のためのWEB会議を行っていますが、この交流会は、近建女の幹事である各府県女性委員会担当者の相互の交流を図り、事業発展に結びつけるために今年度から企画されたもので、夏には琵琶湖ペーロン大会にも参加しました。

今回は、京都府からの提案で、昨年全建女京都大会で人気が高かった待庵・聴竹居の見学となりました。参加者は、各府県から2名と先着順希望者の総勢16名。奈良県からは、幹事の本保と委員会から宮崎さんの2名が参加しました。過去に、支部の見学会や昨年全建女など、また個人で待庵や聴竹居を見学した方も、その記事をご覧になった方も多いためだと思いますので、概要に留めます。

当日は、天気も良く、ソメイヨシノが満開で、絶好の見学日和でした。午前10:30にJR山崎駅前の妙喜庵門前に集合して、すぐに妙喜庵書院「対月庵」(重文)に通され、住職さんから説明を受けました。豊興山妙喜庵は、臨済宗東福寺派に属し、室町時代の明応年間に建立。対月庵の仏壇正面には聖観音を安置し、左側には千利休の像を祀っています。この対月庵の縁先に待庵(たいあん)が建っています。

待庵は、犬山城有楽苑内「如庵(じょあん)」(伝、織田有楽斎作)、大徳寺塔頭竜光院内「密庵(みったん)」(伝、小堀遠州作)とともに国宝三名席のひとつ

で、千利休作と伝えられる唯一の茶室です。如庵については、この2週間前の3月17日に女性委員会で見学したばかりで、密庵は完全非公開のため、見学可能な国宝茶席二席を続けて見せていただいたこととなります。

待庵は、外部からのみの見学なので、内部が暗くて細かいところが見えないのが残念でした。

待庵は最初からこの場所に建てられたのではなく、1600年前後に、他所から妙喜庵に移されたようですが、以後400年以上も同じ場所で、ほぼ同じ姿で現存するそうです。

内部は二畳敷、次の間一畳、水屋一畳で構成。壁はワラスサを土壁の表面に出した塗り方で、隅を丸く塗り回すことで狭い空間を広く見せています。天井は、一部をかなり大きな高低差の掛け込み天井にして、圧迫感を和らげています。躡り口はやや広く、連子窓や下地窓もその下地も建築当時のままだそうです。次の間とは襖で仕切られていますが、この形が発展して台目茶室が出来たとのこと。

次に、聴竹居(ちょうちくきょ)に向かいました。妙喜庵とはJR東海道本線を挟んで向かいの天王山麓にあり、徒歩5分程です。

聴竹居玄関前では、石の怪獣がちょこんと出迎えてくれました。

聴竹居は、京都帝国大学教授藤井厚二が、自ら理論化した環境工学の知見を設計に盛り込み、居住、実証、改善を加えながら次々と建てた「実験住宅」の自邸で、その完成形とした1928年(昭和3年)建築の第5回住宅です。第1~4回住宅は現存しません。

聴竹居は、「聴竹居」倶楽部と管理ボランティアが維持管理・保存を行っており、当日は、管理ボランティアの森本素生氏から説明を受けました。

聴竹居は本屋と閑室の2棟がありますが、公開されているのは本屋だけです。

自然エネルギーを活用した環境共生住宅の原点、和と洋を統合したモダンなデザイン、当時は考えられなかった居間中心のプランニングなどが特徴ですが、詳細は、この記事では書ききれませんので、百聞は一見にしかず、まだの方は一度訪れてみてください。ガイドなしの公開が主ですが、四季折々に特

別公開ツアーも行っているようです。ただ、これは以前に私が訪れたときの経験ですが、夏を涼しく過ごすために裏の川を渡る風を床下から部屋に引き込んでいて、空気の流れに細かく配慮していますが、虫や蚊には頓着されなかったようで、夏に訪れる方は、虫除けを持って行った方が良いでしょう。

昼食時には、特別に管理団体のご厚意で、居間と縁側を使って、聴竹居弁当をいただきながら、近建女の来年度予算についての会議を持ちました。全国的に会員の減少で予算が逼迫しているのは、全建女も奈良県女性委員会も同じですが、担当会長や代表幹事にごんばってもらって何とか24年度並みを確保しようという事になりました。

聴竹居弁当は、見た目も春らしく、とてもおいしくて、一同大満足でした。

午後も続けて見学を行い、最後に集合写真を撮影しました。ガイドの森本さんは集合写真を撮り慣れているらしく、あちらこちらと向きを変えての撮影で、そのうちの1枚が次の写真です。

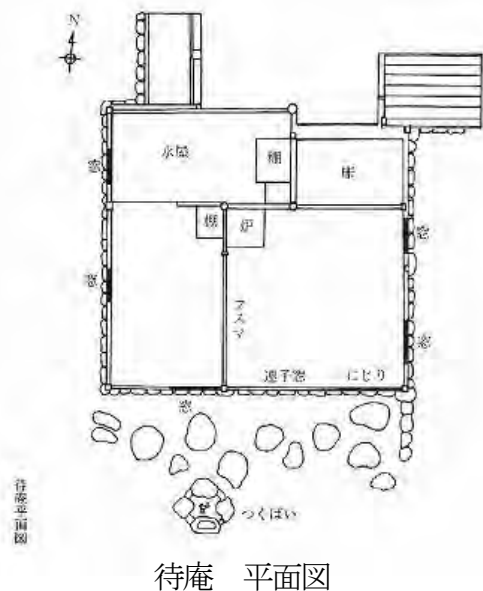


その後、解散となりましたが、この地、京都府大山崎町は、羽柴秀吉や明智光秀ゆかりの地で名所旧跡が多く、また、サントリー山崎蒸留所やアサヒビール大山崎山荘美術館があります。

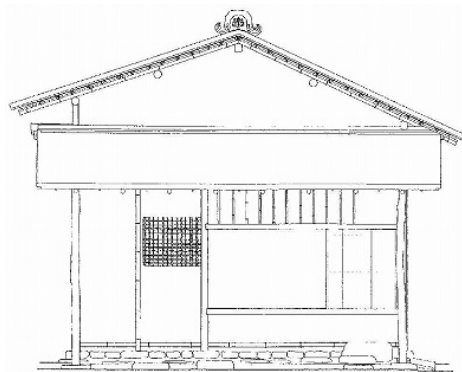
私は昨年12月にも、このサントリーとアサヒビールを訪れましたが、大山崎山荘美術館を花の頃にもう一度見たいと思っていたので、この機会に、宮崎さんに無理を言って訪れました。桜や木蓮が満開で、安藤忠雄の「地中美術館」に展示されている、モネの睡蓮に負けず劣らずで、楽しいひとときを過

ごしました。また、桂川、宇治川、木津川が淀川になる合流点が近いので、2階テラスからは三川が見渡せますが、宇治川と桂川間の桜並木が満開で、眺望も絶景でした。

近建女の25年度見学会は、京都での開催を予定しており、また、近建女交流会も計画していますので、今年も積極的な参加をお願いします。



待庵 平面図



待庵 立面図



聴竹居

岐阜見学会 ～「如庵」を訪ねて～
渡邊 有佳子

3月17日、暖かな早春の朝、バスは近鉄奈良駅前を出発し、途中針テラスからの参加者を乗車させ、愛知県犬山市 有楽苑へ向けてひた走ります。

織田信長の実弟の織田有楽斎は、晩年、武家を棄て京都建仁寺の正伝院を隠棲の地とし、1618年頃その境内に茶室を建てました。この茶室が国宝茶室如庵です。如庵は明治以降、東京や静岡等、各地を転々としてきましたが、最終的に有楽斎の故郷に帰り、安住の地を得ました。その場所は有楽苑と名付けられ、如庵の他に有楽斎の隠居所であった旧正伝院書院や、古凶にもとづいて復元された大坂天満の茶室元庵などが移築・復元され、保存されています。



さて、その有楽苑に到着し、いよいよ如庵の見学です。一度に全員が入ることができないので、2グループに分かれての見学となりました。



まずは旧正伝院書院 控え間にて概略を伺いました。そして、如庵の内部へ。二畳半台目、炉は向切。床脇に鱗板（三角の板）を入れて壁面を斜行させています。このため「筋違い囲い」などと呼ばれているそうです。また、腰張りに古暦が貼られていることから「暦張りの席」とも呼ばれるそうです。座ると、窓からの光の取り入れ方がとても考えられていることに気が付きます。有楽窓から入る細い光、屋根に設けられの突き上げ窓からの明るい光、床の間の陰影、手前座の手元を照らす窓。その濃密な意匠と、歴史的背景を感じながらひと時を過ごしました。



新しく建てられた弘庵では、お茶席を設けていただき、茶の湯と犬山の歴史を感じました。

一行は次の目的地、犬山城へ向かいます。到着すると、お城まわりの桜の花がちらほらと咲き始め、たくさんの人でにぎわっていました。まずは青空の下で春のお弁当をいただいてから、天守閣へ。



急な階段を上り天守の廻縁にでると、悠々と流れる木曾川と犬山城下が一望できる見晴らしの良さです。天守閣内には、犬山城の軸組模型があり興味深く見学しました。城郭建築の力強さも見どころでした。



続いて、長良川うかいミュージアムへ移動。平成24年8月にオープンした、長良川の鵜飼の伝統文化を紹介する施設です。迫力ある映像と音楽、触ったり覗いたりしながら見るパネルや模型展示、光の演出など、最新の展示技術に目を見張りました。本物の鵜匠の方にお話を伺えるコーナーもあり、いろんな質問が飛び交っていました。



そして、鵜匠の仕事と暮らし、鵜との関係、伝統・文化を知りました。一隻の船には、数人の鵜匠が乗り込みます。それぞれに役割分担があるそうです。鵜は、野生の鵜を数か月かけて仕込み、関係を築くという話には驚きました。

最後の見学地はハイタウン北方です。県営住宅の建替え計画を磯崎新氏がコーディネートし、4人の

女性建築家がそれぞれ4棟の設計を担当しました。棟間には小庭園が連続し、当初は面白い風景を作り出していたのですが、樹木は切られ色は褪せ、現在は少し殺風景な雰囲気となっていました。公営住宅の運営と建築家の思いを両立させることの難しさを考えさせられました。

外からの見学でしたが、特徴あるコンセプトを住民の方々はそれぞれに生かして暮らしておられる様子も見受けられました。



無事に一日の見学コースを終え、バスは奈良への帰路へ。バスの中では、撮影した写真を見て見学先を振り返りながら帰りました。とても充実した一日となりました。



『既存木造住宅の耐震診断・補強設計講習会』
を受講して

庄田 尚代



2月2日（土）ならまちセンターで限界耐力計算による耐震診断・耐震補強の考え方についての講習会に参加させていただきました。講師はJSCA 関西の檜原健一氏と横田友行氏。

日頃、木造住宅の設計業務を行っていない私にとって木造の限界耐力計算はあまり興味がなかったので、今回初めて参加しました。（過去3回ほど実施されていたそうです。）

木造といっても、体育館のような大規模なものもあれば「4号建物」のいわゆる通常の住宅のような小規模なものがあります。後者は、壁量、4分割法による偏心の確認、床の面内剛性、柱断面の設定、接合部の設計などの仕様規定の確認のみで構造計算が必要とされないものがほとんどです。その他許容応力度計算による設計、高度なエネルギー法や時刻歴解析による設計、今回講習会のテーマである限界耐力計算による設計があります。限界耐力計算とは、ザクッとえば、架構がどれだけの変形に追従できるかということを検討する方法です。これらは建基法関連告示規定により行うのですが、木材料の経年劣化などは構造計算に考慮されていないので、伝統的木造建物についての耐震診断時には事前調査をしっかりと行わなければならないということです。

実際に簡易法として、手計算で行うことのできる軸組構法の限界耐力計算実習を行いました。JSCA 関西さんのホームページでは伝統的構法の限界耐力計算ソフト(エクセル)が公開されており、自由に使用して良いそう

です。もうすでにご存知かもしれませんが、まだの方は試されてはいかがでしょうか。



また、現存する伝統的建物は百年も前に大工さんの経験値で建てられ、長年数々の地震に耐えてきたことを実証しています。それらが適判に回ったりするのは、妙な感じがします。

いわゆる伝統的建物は、柱頭が横架材と柱脚が石礎とピン接合になっています。そして上部構造は、斗拱、深い軒、大きな小屋組み、重そうな日本瓦でいかにも頭でっかちで不安定な感じを受けます。内部構造も参拝のため大空間で耐力壁らしきものはそれほど見当たりません。しかし幾度もの地震に遭いながら現存しています。実際、そういった建物を鉄骨ブレースや、ホルダウアンカーで強固に固定し補強したところ屋根の一部が陥没し、柱に横割れが生じたそうです。粘り強い伝統的建築物に過度の補強は逆効果であるという興味深いお話でした。

伝統的木造住宅の構造設計の新しい展開が期待できるお話でした。





私は今、建材（外壁材）メーカーの代理店アユミ建工に勤務しています。仕事は外装部分の見積もりが主ですが、経理・営業・雑務、なんでもあり、営業の仕事では設計事務所を訪問しメーカーの製品（外装材ラムダ）の話を、自社の進めるメーカーの利点の話（あたりまえ？）建築に携わるのにそれだけでは・・・少しさみしい気が、一念発揮、資格を取ることに、普通高校しか出ていない私には大変で晴れて「2級建築士」に合格した時は「やった！」とよく頑張った自分に少し感動（やれやれよかった）士会に入れていただきました。女性委員会の見学会に参加させて頂き、たくさんの方々とお知り合いになれました。（素晴らしい先輩の方々です。）

そして、女性委員会の一員に入れていただき、初代会長が武市さんのUD部会に入り活動に参加、最初のテーマは「トイレ」について、何処にいても「トイレ」を覗きにいきます（あやしい・・・？）建物の調査・見学を重ね一冊の小冊子にまとめました。

「トイレ編」が完成、次は「外部空間編」です。対象者（人物）別に各班に分かれて行動しまとめ「外部空間編」が完成、この2つのまとめに参加して「誰にでも公平に使用できること」が常に意識出来るようになりました。今は居ませんが年老いた母と暮らしている時、UD部会で勉強した事が大変役にたちました。

平城遷都1300年祭のイベント行事に参加させて頂き始めは我ながら「だいじょうぶ？」戸惑いと不安ばかりでしたが、私にとって二度と経験で

きないであろう貴重な勉強や体験をさせて頂きました。新しい発見と感動の毎日でした。今思いたしてもその行事の準備の為にかけた日々の中で、お茶室の拝見に伺ったりまとめの為に皆で集まって「ワイワイガヤガヤ」と会議をしたりと、皆さんと行動できた事にただただ感謝の思いでいっぱいです。

「大和茶室探訪Ⅱの2」の編集にも参加させて頂きました。あつという間に時間がたちます。一緒に頑張った皆様には、本当に感謝の思いでいっぱいの毎日でした。遅い時間までの会議、宿題があったり「大和茶室探訪Ⅱの2」が完成、ばんざい！（本当に良かった）長いようで短い日々でした。

お茶室の意匠の「引手」「欄間」「照明」等の素晴らしさにも感動しました。「引手」にこんないろいろな種類が有る、「つぼつぼ引手」や「月文字引手」名前までついているとビックリ、たくさんのお茶室を拝見させて頂き機会をいただき「お茶道」心の何処かに「お茶室」にバリアー“障壁”を感じていたのがなくなりました。

和室の「畳」に座ると“ホット”します。見積もりをしていますと和室のない住宅・集合住宅を多くみかけます。和室が無くなってしまおうのでしょうか？年を重ねていきますと“便利で使いやすい”を重視してしまいます。階段には手すりがほしい、段差がなくバリアフリーがいい等、現実はやはり新しく使い勝手のいい商品になってしまいます。でも夢は今まで拝見に行ったお茶室の意匠が有る和室がほしい。自宅は店舗付の住宅です。築70年は経っている長屋の中の1軒です。ガタガタでやっと雨漏りが昨年のおりました。1階の店舗を知り合いに貸しています。その方が店を辞めたら店舗を潰して下で住めるようと考えています。その時は和室は必ずつくる、私がいままで見てきた意匠を何か一つでも取り入れたいなあと思っています。

今後又いろんな見学会があれば参加させて頂きたいと思っています。皆様今後ともよろしくお願い致します。

今後の事業予定

平成 25 年

- 5月9日(木)～13日(月)
1級建築士試験申込受付
 - 5月22日(水)
ならすまいアップセンター住宅相談
(奈良県建築士会館)
 - 5月23日(木)
通常総会(奈良県文化会館)
- ※ 出席、もしくは委任状の返送は、5/10 までです。
総会の議決には過半数の出席(委任状を含む)が必要ですので、まだお手元にお持ちの方は、急ぎご返送の程よろしくお願いたします。
- 7月7日(日)
2級建築士学科試験(奈良大学)
 - 7月24日(水)
ならすまいアップセンター住宅相談
(奈良県建築士会館)
 - 7月28日(日)
1級・木造建築士学科試験(畿央大学)
 - 8月27日(火)
2級建築士学科試験合格発表(予定)
 - 9月10日(火)
1級・木造建築士学科試験合格発表(予定)
 - 9月15日(日)
2級建築士設計製図試験(奈良大学)
 - 9月25日(水)
ならすまいアップセンター住宅相談
(奈良県建築士会館)
 - 10月13日(日)
1級・木造建築士設計製図試験(畿央大学)
 - 10月19日(土)
全国大会(しまね大会)

～ 編集後記 ～

風薫る5月になりました。

目に映る景色も新緑の木々がとても美しい気持ちのいい季節ですね。

この女性建築士の輪「フープ」の編集を担当させていただいて2年……私は今回で卒業となりました。不慣れでお役に立てないままであったと反省しきりです。

毎回、多くの方々にご寄稿をいただき、ご協力に感謝いたします。本当にありがとうございます。

また、担当させていただいている間には、いろいろなイベントもあり新しい経験をさせていただき、大変勉強になりました。

女性会員の皆様もフープを通して様々な情報を得ていただけたのではないのでしょうか。

これからは一番に原稿を読ませていただくことはなくなりますが、一会員として毎号楽しみにしたいと思います。

今後もますます女性建築士の輪が広がっていくよう願っております。

(平島朋子)

